

科学史技術史通信

特定非営利活動法人
科学史技術史研究所

田中・山崎・飯田・菊池・道家文庫

No.12

2010.11.20

165-0027 東京都中野区野方 1丁目 2 9 番 1-B101

Website URL: <http://ihst.jp/> e-mail: ihst@ihst.jp



Glasgow 大学の正門脇の門扉:Watt や Maxwell, Adam Smith ら大学関係著名人の名前が飾られている。

ジェームズ・ワットが修理した ニューコメン機関

小林 学

今年の 9 月に英国に出張し、コーンウォールなどの他にグラスゴーにも訪問した。9 月の中旬にもかかわらず、グラスゴーは東京の 11 月くらいの寒さだった。

今回は資料調査の他に、グラスゴー大学に保管されているジェームズ・ワットが修理したニューコメン機関の模型を見学しようと思っていた。グラスゴー大学の戸田有信さんに連絡をとったところ、ハンテリアン博物館は屋根の葺き替えのためこの模型の見学ができないとのことであったが、戸田さんの尽力で特別に見学できることになった。予定の日は、ロンドン科学博物館からの依頼を受けて二人の模型製作者がやってきているという。その合間に見学させてくれるとのことだ。ハンテリアン博物館のベートソン博士を訪ねるようと戸田さんから連絡を受けた。

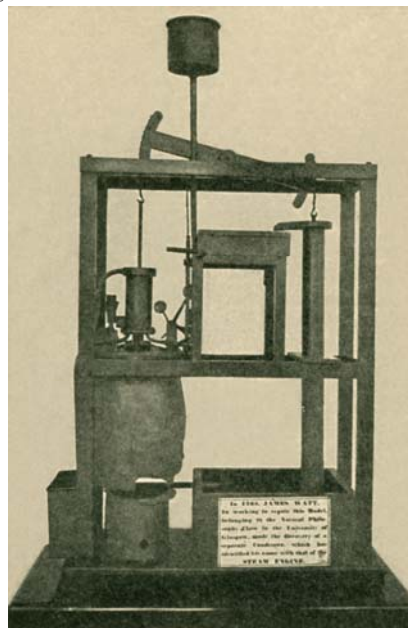
グラスゴー大学にバスで行こうと試みる。グラスゴー市中心地のバスターミナルでどちらに行っても良いか迷っていると、イスラム系の女性が行き方を教えてくれた。とりあえずバスにのって city center まで行って、そこからグラスゴー大学行き 44 番のバスに乗れと言う。話をしたらグラスゴーカレドニアン大学の最後の学年に在籍しており、心理学を専攻しているとのことだ。私の専門についても話をした。ジェームズ・ワットを知っているか聞

いてみたら、驚いたことに知らないという。私の Watt の発音がおかしいのか？途中、George Square でジェームズ・ワットの銅像を発見、あれが James Watt だよと言っても知らないとのこと。グラスゴーではあまり有名ではないのだろうか？電球の消費電力表示だってワット W だと思うのだが。

ここのバスは全く車内放送がない。乗客は、次の降りたいバス停でボタンを押して降りる。これでは旅行者はまったく分からないだろう。とりあえず学生がいっぱい降りるところで降りる。運転手さんにグラスゴー大学の正門かと聞いたら、すぐそこだという。

ハンテリアン博物館の受付に行ったらベートソン博士と約束があるというので、すぐに博士の研究室に通じてくれた。部屋にはベートソン博士と 2 人のモデルメーカーがいた。彼らはとりあえず休憩。ニューコメン機関の模型は、高さ 1m 弱、幅 80cm くらい奥行き 20cm くらいの小さなものだ。彼らが休憩している間に、写真を撮らせてもらった。製作から 250 年近く経過したであろうと推測されているこのニューコメン機関の模型も保存状態は驚くほど良い。いつもはガラスケースの中に入っていてうまく撮影できないとのことなので、今回は大変幸運だった。

30 分くらいで彼らが戻ってきた。その後、彼らの仕事ぶりやベートソン博士の話聞いていたが、それによってよりこの模型の理解が深まった。ここがおそらく煙突の跡、燃焼室の直下の模型台座底のへこみは、熱を遮断するためだろう。ボイラの形状は、などなど。私の質問にも答えてくれた。この装置は？きっとシリンダーへの給水装置だろう。ふたに小さな穴が空いているのは、きっとフィルター役目をしていたのだろう、どこかの水の流れを引いてきていたのかもしれない、などなど。



ワットが 1763-75 年に改良しグラスゴー大学のニューコメン機関

http://en.wikipedia.org/wiki/File:Newcomen_steam_engine.jpg (元は Elmer Ellsworth Burns (1910) *The Story of Great Inventions*, Harper & Brothers, New York, p.39, fig.13 1923 年以前) 模型は Glasgow 大学に有

以下の内容(全 6 頁)は、会員配布の印刷体でお読みになれます。ここでは目次のみです。



大学構内 Professors corner の Kelvin の住んでいた家

*** 紹介 ****

ドイツ・シュトゥットガルトの古本屋 Hofmann からカタログ No77 が発行



田中鶴子様のご長寿をお祝いして



本研究所の田中・山崎・飯田・菊池・道家文庫の一部は故田中実元東工大・和光大教授の残された史資料で構成されていますが、その田中教授ご夫人田中鶴子さんは、101 才を元気で迎えられました。そのお祝いの会が開かれたので、紹介いただきました。

近刊紹介

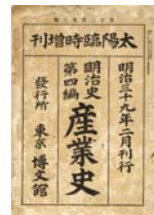


「理科が苦手」な小学校高学年から中学生の子どもたち、「理科的なことに興味はあるが、難しい定理や数式はちょっと…」という「文系」アタマのお父さん・お母さん、子どもたちに「理科の楽しさを教えたい」学校の先生」
におすすすめと謳っています……

本研究所の会員小林学氏ほかによって、下記の書物が上梓されましたので、紹介します。

◆◆◆ 本研究所蔵書から ◆◆◆

『太陽臨時増刊 明治史第四編産業史』
(第一二巻第三号) 博文館, 明治39年年2月刊.



足尾銅山通洞水力発電所

備前紡績会社



東京高等工業学校教室

『鉄と鋼』1915 年発行開始

日本鉄鋼協会 創刊号

近年の科学史技術史書紹介

14 点を紹介

科学史技術史関連雑誌

18 点紹介

研究所(史資料)の利用方法

1. 会員の場合
 - 1.1 会員は、自由に、いつでも利用できます。
 - 1.2 会員は、各自利用するための手段を自己管理のもとに有することができる。(最初は方法について理事会と連絡を取ってください。)
2. 一般市民の場合
 - 2.1 一般市民も研究所の史資料を閲覧利用できます。
 - 2.2 利用方法は、当面、メール ihst@ihst.jp もしくは、電話(080-5901-0730),あるいは手紙等で利用時間を予約し、事務局と利用時間を打合せて下さい。

記事訂正

- No10 p1 左欄下 1 行 Lindquist 氏が抜け。
- No11 p4 右 28 行 現在→当時
- p5 右下 5 行 するするとともに → していったが、
- p6 右 20 行 が、ドレスデン → が、その当初はドレスデン
- p7 右 下 4 行 それとは → それとは別に
- p8 左 4~5 行 →…による大気汚染等をべつにすれば。
- 右 4 行 専心者に…→専心していた者に対する
- P10 長佐竹 → 尾佐竹